

躍進 京滋の中小企業

手

芸で作るバッグの持ち手
を主に企画、製造している。若者の手芸離れなどで市場が縮小する中、新たな需要を開拓しようと、高齢者や幼児らが針を使わずに手芸ができるキットを開発。3月に京都商工会議所から、自社の強みを生かした独自の事業として「知恵ビジネスプラン」に認定された。

キットでは、合成皮革のシートにメッシュ状に開いた穴に、靴ひものように先端を固くしたひもを手で通して「X」を縫い付けていき絵柄を描く。針の管理が不要のため、高齢者施設や保育園などでも安全にレクリエーションで使える利点がある。

きっかけは、手芸市場への危機感だった。1980年代から持ち手販売を始め、革製や木製などの新商品を次々と企画し事業を伸ばしてきたが、当時の客層が高齢化。スマートフォンの登場などで手芸に興味を示す若者も増えにくく、10年、20年後の需要の落ち込みを考慮し、新分野への挑戦を決めた。

まだ市販はしていないが、どんなレクリエーションをするか悩んでいる高齢者施設など、

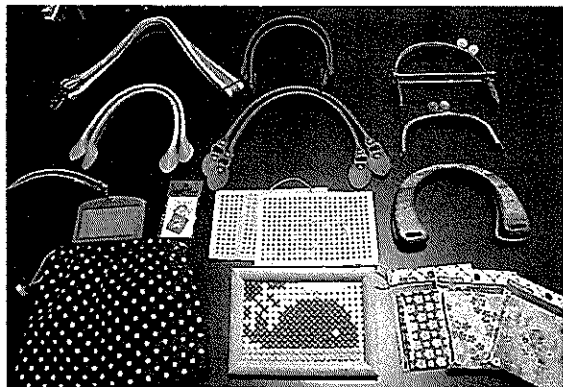
(京都市上京区)

植村



①手芸用バッグの持ち手を検品する従業員(京都市上京区・植村本社) ②針を使わずに絵柄を縫うことができるキット(中央下)や手芸用バッグの持ち手など

時間をかけて楽しめる商品としめる事業に育て、再び手芸へ向かっている。人形や手まりの制作に
て売り込む考えだ。介護専門誌 関心が高まることを目指す。使ってもらえるの布地販売なども
に広告を掲載したり、福祉用品 ほかにも新規事業として、持 行っている。
の展示会に出展したりと、従来 ち手の材料である合成皮革を活 今 後は、手芸用品事業を強
の手芸用品の流通とは違う販路 用し、ペット用のネームプレー 化するため、自社のアン
を開拓する計画。針を使わずに トや社員証を入れるカードケー テナショップの開業も計画す
縫って作れる巾着も開発してお スも開発した。ペットショップ る。植村一夫社長は「うちの強
り、合わせて売上高の1割を占 や雑貨店などへの販売を目指し みは、小売店からどんな商品が
ほしいかを聞き取り、すぐに応



「と意気込む。(三村智哉)

針不要の手芸で販路開拓

「自産自消」へサービス盛況

1902年に創業し、家庭用縫い糸や組みひもを販売。63年に株式会社化した。84年に手芸用バッグの持ち手販売を始め、「INAZU

メモ

MA」ブランドで手芸用品を展開する。資本金1000万円。売上高は約5億円。従業員は30人(パートを含む)。

天井設置型のプラズマクラスターイオン発生機を開発した
シャープのプラズマクラスター機器事業部係長

さわい かずみ
沢井 和美さん



家 の中で最も臭いが気になるトイレ。シャープ

「応えたい」と開発を始めた。
天井の電球ソケットを利用する案はす

業の率 ※金融庁による
四捨五入のため
にならない